

発行日 令和7年2月25日（火）  
 発行者 別府市立東山幼稚園  
 別府市立東山小学校  
 別府市立東山中学校  
 校（園）長 谷川 芳明

別府ライオンズクラブの皆様(8名)が来校され、今年度も3年生の手による植樹が実施できました。この取組は、植樹を通して、地域の生徒と関わり、環境についての教育普及を目的としており、市内でも本校のみで実施されているそうです。天候にも恵まれ、生徒の名前を記した標柱も、樹木の傍に建てました。開会式前、校長室でご挨拶の後、例年来校はされてはいましたが、教室等は見たことがないとのことから校舎内をご案内しました。

[illegible]

先日、工藤勇一氏(日曜劇場『御上先生』の監修)の講演会(テーマは不登校)に参加した  
おり、大分市教育委員会教育長栗井明彦氏(文部科学省出身)が開会のあいさつで

- 大分市は、小学生は43人に1人、中学生は12人に1人が不登校。
- 不登校の未然防止に向けて児童生徒を支援する「OITA COCOLO PLAN(オオイタ・ココロ・プラン)」を策定。
- 特に、入学後の環境変化になじめない「中1ギャップ」等の解消に重点を置き、「スロースタート」を実施①4月、9月、1月の学期はじめの授業は、1週間午前中のみ。また授業時間を45分から40分にして、午前中5時間実施など各学校で取組む②部活動開始時期を5月に変更。
- 県教委が令和4年度に遡って不登校児童生徒数を調査した際、大分県の特徴として、小学校6年生から中学校1年生に進学した後、不登校生徒が倍増傾向。
- 講演で印象に残ったこととして、各種データを分析、考察、「生きる力」を付ける上で、「主体的に課題解決できるようになれば、簡単に人のせいにしなくなる(親が悪い、学校が悪い、社会が悪い)。小さな自己決定の積み重ねで自己肯定感が高まる。人にただ褒められても自己肯定感はあがらない」「自己決定できるためには、失敗が許される環境や風土が必要。心理的安全が守られていることが大事。個人によって必要なことは違うのに、回数や点数を一律にノルマを課すことは科学的ではない。劣等感を生み出す「個別最適化を目指すべき」